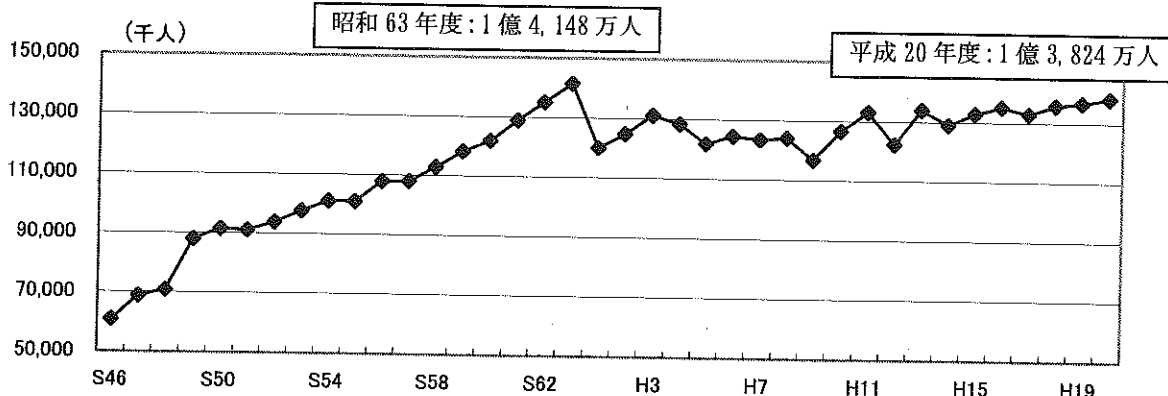


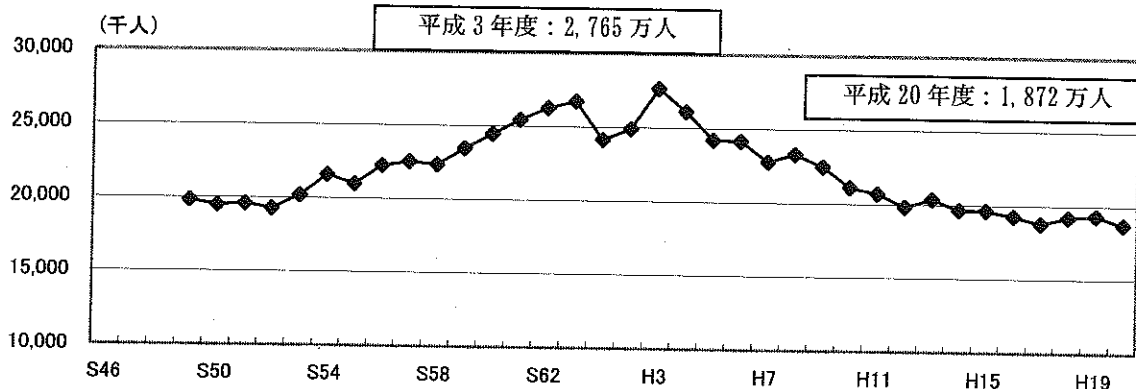
(参考)

(1) 年度別観光交流客の推移と特徴

観光交流客数



宿泊客数

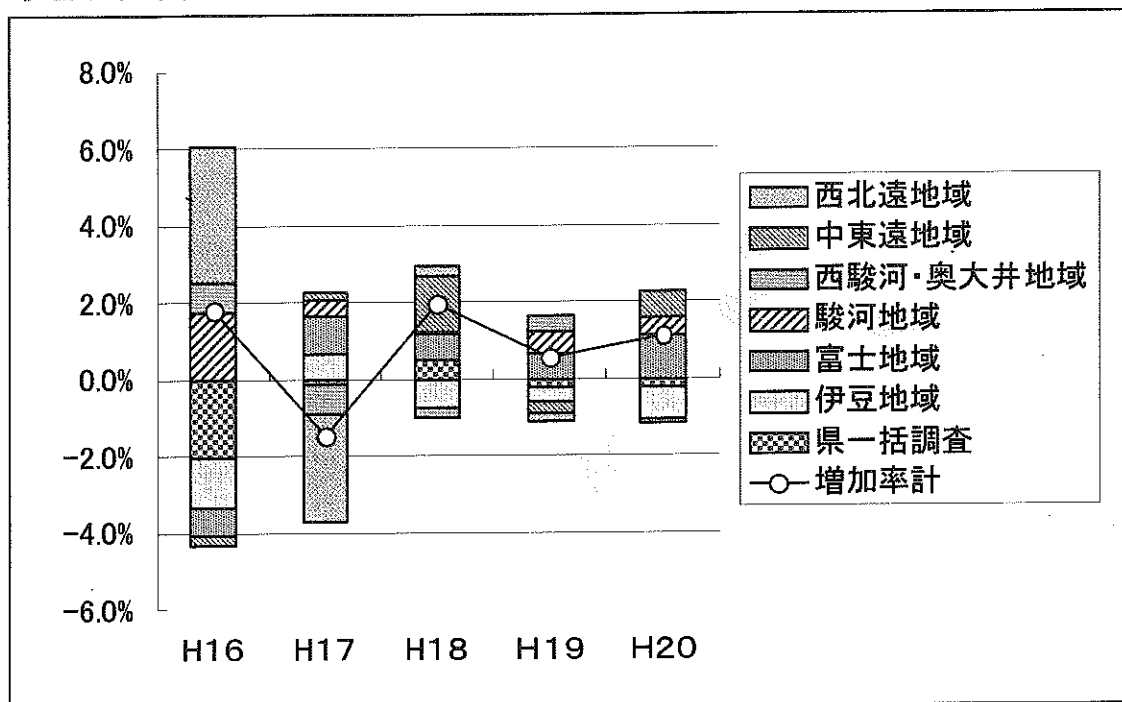


- 観光交流客数は、昭和 63 年度までは海外旅行ブームが追い風となって国内旅行にも拍車がかかり順調に増加し、昭和 63 年度に過去最高の 1 億 4,148 万人となった。同様に宿泊客数も平成 3 年に過去最高の 2,765 万人となった。
- 平成元年度は、統計上の基礎数値が料理等飲食税課税データから特別地方消費税の申告数値に変わったことや、伊東沖の海底噴火等の影響のため、1 億 2,006 万人と前年度に比べ 15.1% 減少した。
伊東沖の海底噴火の影響等により、伊豆地域は県全体の 45.0% と全体に占める割合が半数以下となり、また宿泊施設、観光施設とも入込客数は前年度比 $\Delta 39.3\%$ 、 $\Delta 4.8\%$ とそれぞれ下回った。
- 平成 3 年度は、冷夏、秋の長雨、台風襲来、景気の減速など厳しい状況であったが、湾岸戦争の影響で海外旅行が国内にシフトしたこと、ゴールデンウィークが好天に恵まれたことなどから、観光交流客数は 1 億 3,116 万人、前年度比 5.1% 増、宿泊客数は過去最高の 2,765 万人、前年度比 20.0% 増となった。
- 平成 12 年の伊豆新世紀創造祭から平成 16 年の浜名湖花博まで大型イベントを開催している。この後の観光交流客数はほぼ横ばい、宿泊客数は減少傾向にある。

(2) 過去5年間の増加率における地域別寄与度

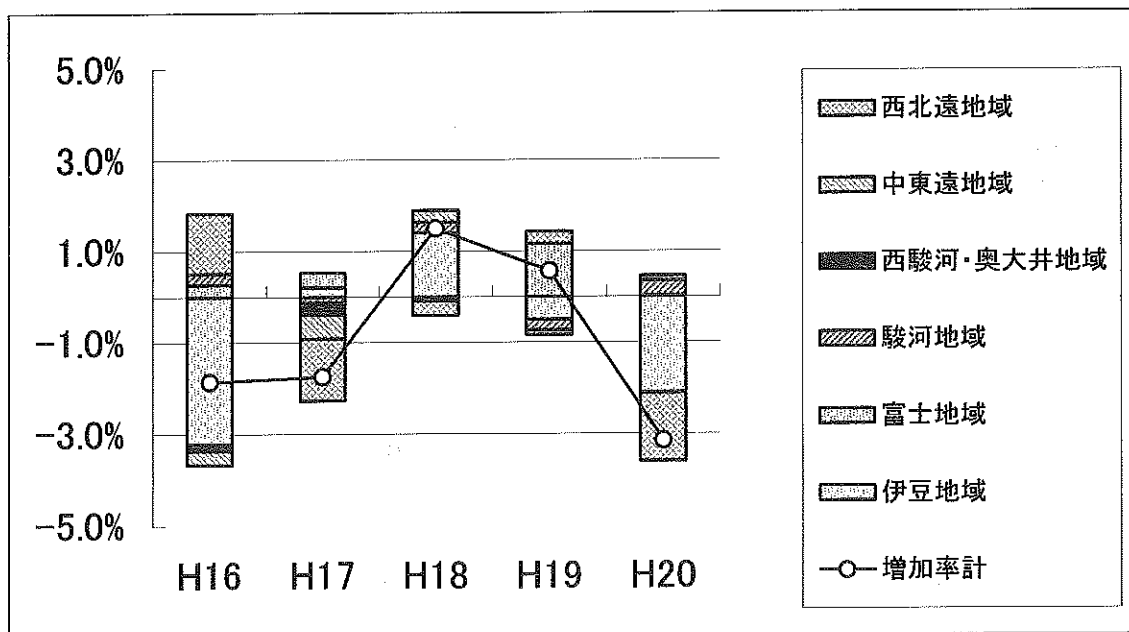
①観光交流客数

平成20年度は、各地域、前年度との増減が比較的少なかった。増加している地域は、富士、駿河、西駿河・奥大井、中東遠地域で、減少しているのは、伊豆、西北遠地域であった。



②宿泊客数

平成20年度は、伊豆、西北遠地域で減少幅が大きくなった。他の地域は、幅は少ないが増加した。

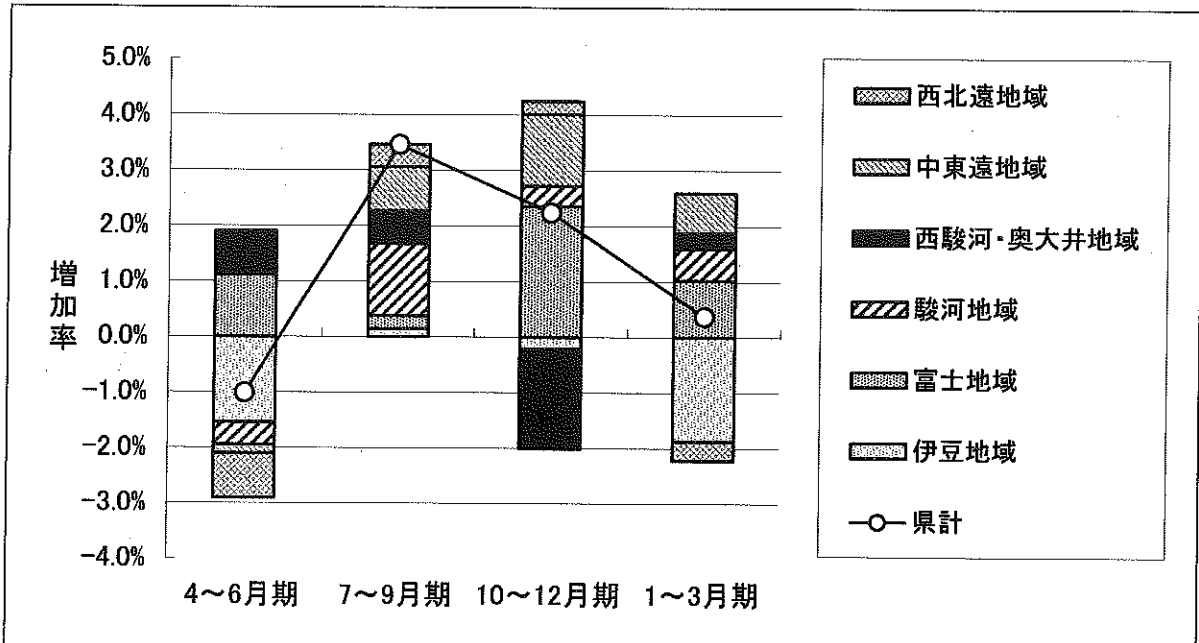


※寄与度：全体の増減に対し、各地域がどの程度影響を与えたかを示す指標であり、各地域の寄与度を合計すると全体の対前年度増加率になる。

(3) 平成20年度四半期別観光交流客数等の前年度比と地域の寄与率

①観光交流客数

7～9月期は海水浴客や富士登山客の入込が増え、全地域で増加した。富士地域は、大型観光商業施設の人気により、通年にわたって増加した。西駿河・奥大井地域の10～12月期は、3年に1度の「島田大祭・帯まつり」、「鮑波神社大祭」が開催された前年度との反動で減少した。



②宿泊客数

駿河地域では、年間を通じて前年度を上回った。伊豆、西北遠地域は、通年にわたって減少傾向が続き、特に全宿泊者数の6割以上を占める伊豆地域の減少率が大きくなった。

